



江東区 町会・自治会 事例集

はじめに

近年、全国的に、町会・自治会では役員の高齢化や担い手不足、若い世代の参加の難しさ、情報発信手段の多様化、集合住宅地域での加入促進など、共通する課題が顕在化しています。

一方で、地域におけるつながりや支え合いは、災害時はもとより、日々の暮らしを支える大切な基盤であり、世代や地域を超えた交流を育み、温かく、思いやりに満ちたまちづくりを進めていくためには、地域に住む住民主体での活動が欠かせません。

そこで本書では、令和7年度に実施した町会・自治会向けアンケート及びヒアリング等で伺った声をもとに、町会・自治会の皆様が抱える課題に対して「自分たちの地域では何からできるか」を考える際のヒントとなるよう、地域で生まれた多様な事例をまとめました。

本書のねらい

本書は、次のような困りごとに寄り添い、活動の一助となることを目指しています。

- 加入者・活動への参加者・運営にかかわる人を増やしたい。
- 若い世代とのかかわりを増やしたい。
- マンション住人との接点をつくりたい。
- 情報発信のデジタル化を進めたい。
- 他の町会・自治体や他団体と連携したい。

戸建て住宅中心の地域と、集合住宅が集中する地域と置かれている状況は異なるものの、本書が、小さな一歩から取り組める工夫や、新たな活動のヒントが見つかる一助となることを目的としています。

町会・自治会の活動は、地域住民の安心・安全、そして豊かな地域づくりを支える、かけがえのない取組です。区としても、地域の皆様と力を合わせ、持続可能で魅力ある地域コミュニティの形成に向けた取組を続けてまいります。

最後に、本書の作成にあたりご協力いただいた皆様に、改めて深く御礼申し上げます。

江東区長
大久保朋果



江東区の町会・自治会の状況	p.1
町会・自治会活性化に向けて大切にすること	p.3
町会・自治会の運営でこんな「困りごと」はありませんか？	p.5
困りごと別の事例 20 選	

① 加入者を増やしたい p.7

北砂3・5丁目町会	p.7
南砂住宅自治会	p.8
毛利町会	p.9

② 町会・自治会活動の参加者を増やしたい p.10

ニュートンプレイス新東京フォーラム	p.10
アルファシティ大島自治会	p.11
東砂1丁目団地自治会	p.12

③ 町会・自治会運営にかかわる人を増やしたい p.13

大島4丁目町会	p.13
深川2丁目南町会	p.14
住利町会	p.15
亀戸4丁目町会	p.16

④ 若い世代のかかわりを増やしたい p.17

東陽1丁目町会	p.17
扇橋1丁目町会	p.18
北砂4・7丁目町会	p.19

⑤ マンション住民との接点をつくりたい p.20

新大橋1丁目町会	p.20
豊洲5丁目マンション自治会	p.21

⑥ デジタルを活用して多くの住民に情報を届けたい p.22

東砂8丁目町会	p.22
亀戸6丁目東町会	p.23
白河3丁目町会	p.24

⑦ 他の町会・自治会や他団体と連携したい p.25

大島2丁目町会	p.25
亀戸9丁目町会	p.26

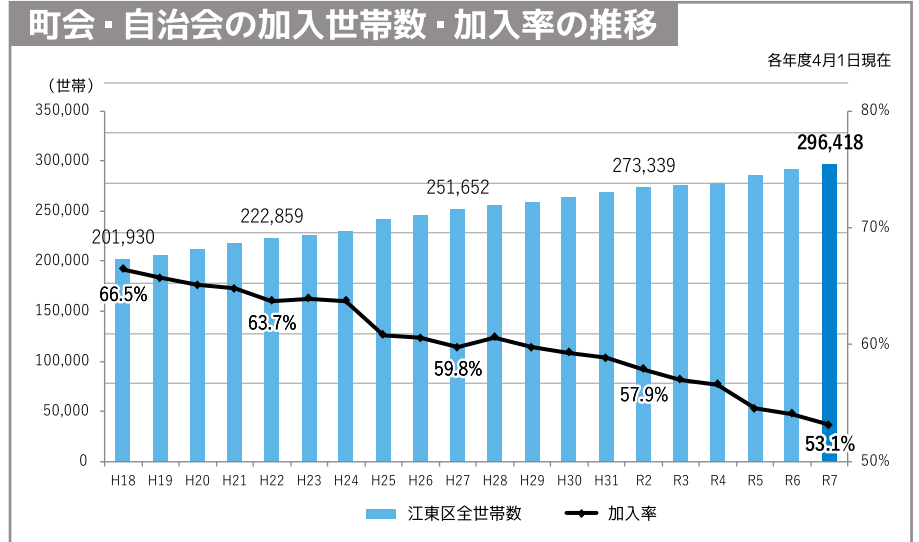
参考 (SNSについての解説)	p.27
-----------------	------

江東区の町会・自治会の状況

江東区には、区と連携・協力し様々な活動を行う町会・自治会が271団体（令和7年4月1日調査現在）あり、各団体では、生活環境の向上、防犯・防火など様々な活動が展開されています。

一方で、本区の総世帯数は増加しているものの、町会・自治会の加入率は年々減少傾向にあり、令和7年4月時点で53.1%となっています。

また、令和7年に実施した町会・自治会向けアンケート結果によると、町会・自治会の運営において、「役員の担い手不足（85.2%）」と「役員の高齢化（84.7%）」が特に重要な課題としてあげられています。

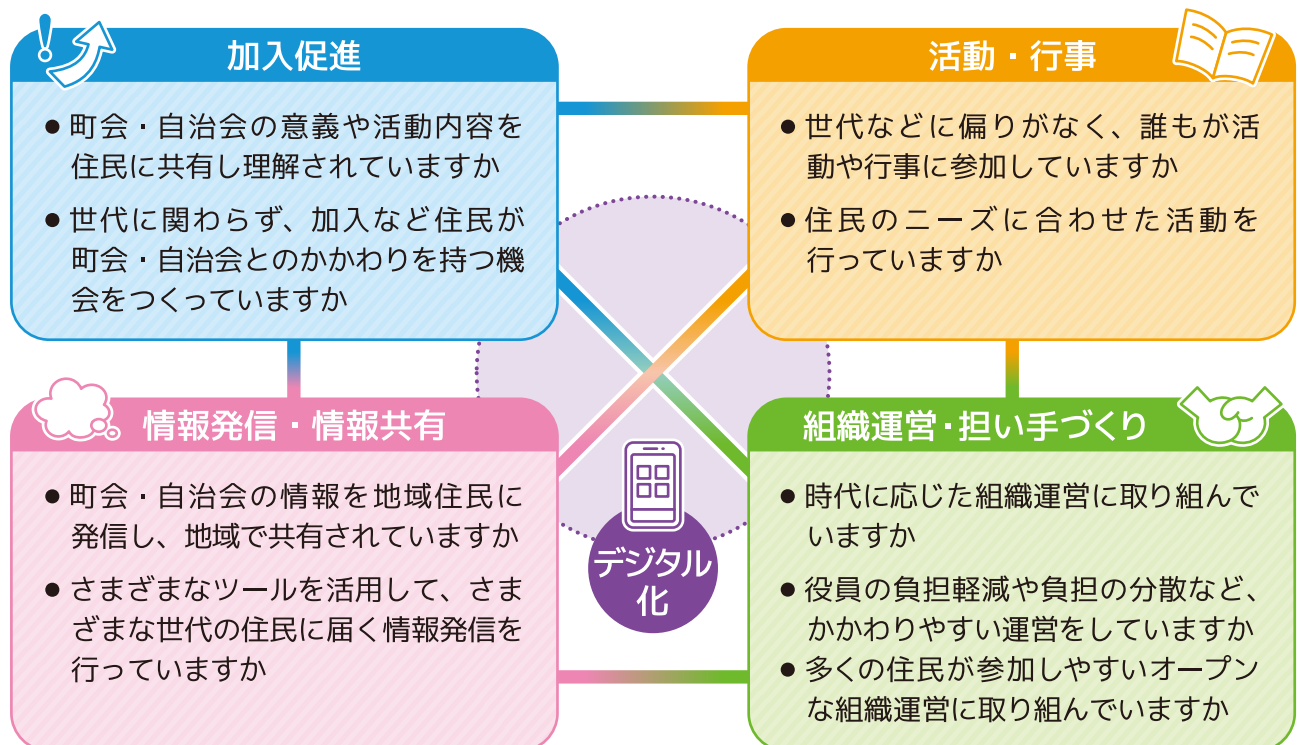


◆ 町会・自治会活性化に向けた4+1の視点

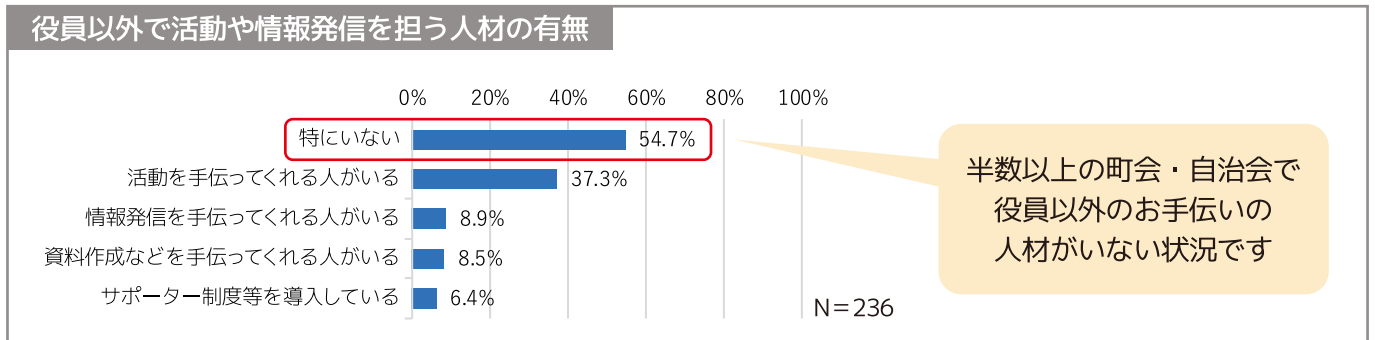
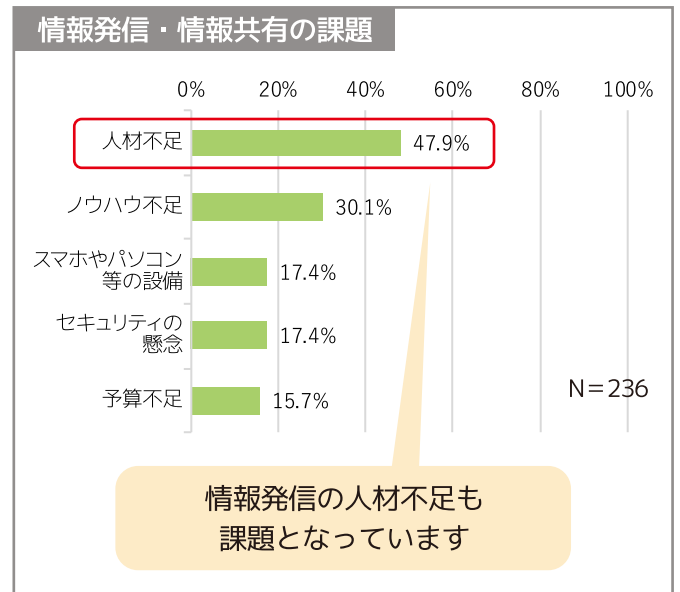
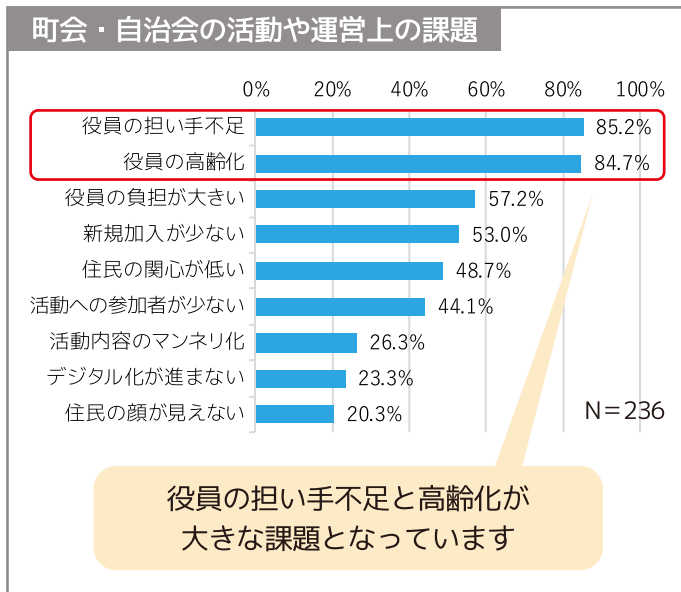
町会・自治会の活性化に向けては、「**加入促進**」「**活動・行事**」「**情報発信・情報共有**」「**組織運営・担い手づくり**」の4つの視点が大切だと考えられます。

加えて、時代に即した町会運営の観点から「**デジタル化**」の視点を踏まえた取組を行うことで、省力化による負担軽減や若い世代とのかかわりづくりなど、より活性化が進むことが期待されます。

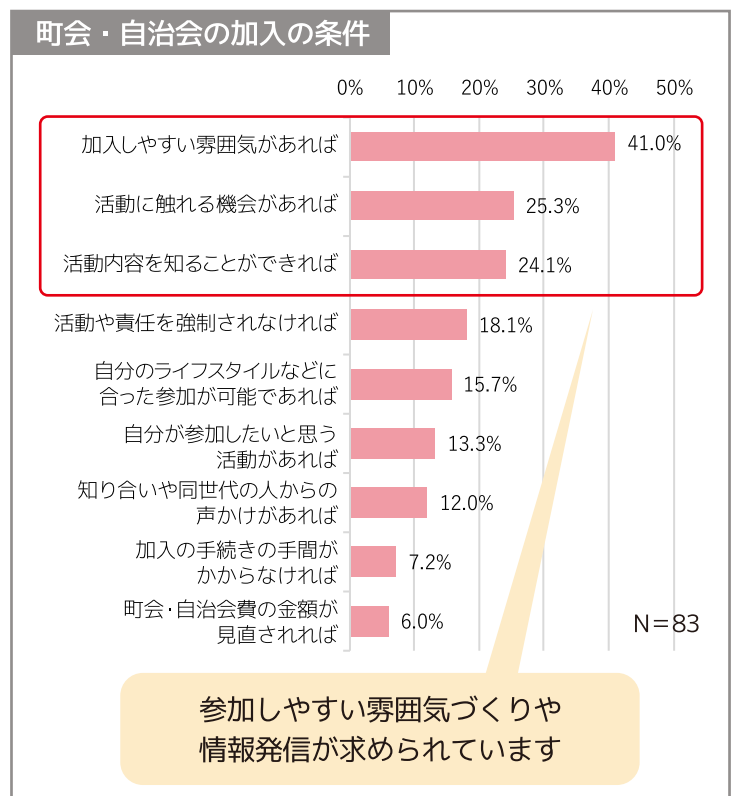
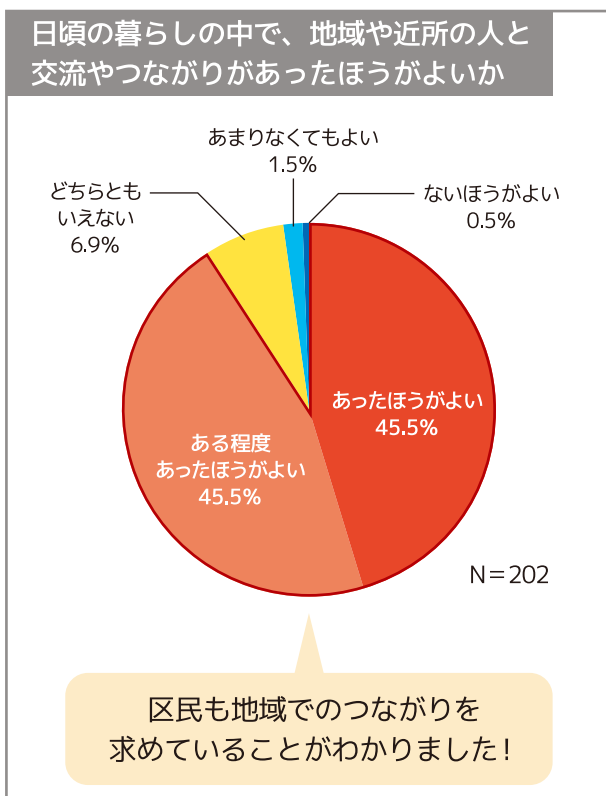
このように4+1の視点で町会・自治会の取組や活動の改善、見直しを図っていくためにも、以下の項目を確認してみたいはいかがでしょうか。



◆ 町会・自治会アンケート結果 (抜粋)



◆ 区民の声 (区民まつり来場者アンケート結果より) ※令和7年度実施



町会・自治会活性化に

今回、ヒアリング調査にご協力いただいた20の町会・自治会では、「町会・自治会活性化に向けて大切にしていること」の共通点がいくつかありました。日頃の町会・自治会の運営の心構えとして、これらを取り入れてみてはいかがでしょうか。

オープンな 町会・自治会運営

“伝える”
情報発信でPR

興味を持って
もらうため、
参加したくなる
活動を!

住民・事業者・
町外の方も
お手伝いとして
かかわってもらう



風通しの良い組織運営

ひとり一人の
“得意なこと”で
活躍してもらう
環境づくり

若い人の企画を
積極的に
採用する!

役員の提案や
「やりたい!」を
実現する

時代に合わせて 町会・自治会が変わる

時代に合わせて
活動を見直し
参加者を増やす

省力化や
デジタル化など
時代に合わせて
変わる

事業の統廃合で
組織をスリム化し
負担を軽減



向けて大切にすること

“かかわりしろ”をつくる

役員会は
現役世代も
参加しやすく
(平日夜や土日)

サポーター
制度など
ゆるくかかわる
仕組みをつくる

かかわる人の
モチベーションを上げて
楽しんでもらう

“かかわりしろ”とは

地域住民が、町会・自治会にかかわることができる、もしくは、かかわってもらうための「のりしろ」となるような余白や動機付けなどの要素のことです。情報発信・共有、きっかけや接点、場や機会のほか、興味関心やニーズへの対応、かかわりやすさなどが考えられます。

日ごろの声かけなどの関係づくり

人と人との
つながりが
生まれる
取組を行う

顔見知りから
少しずつ親しくなり
お手伝いや役員へ

食事会など、
楽しく交流できる
機会をつくる

まずやってみる!

取り組みたいことを
少しでも実現し、
その取組を続ける

最初は参加者が
少なくても、
続けることで
認知が広がる

住民のニーズに
合わせた活動を、
まずやってみる

こどもの参加

こどもの頃から
町会・自治会の
活動に参加する
ことが当たり前

こども時代の
かかわりが、
将来のお手伝いや
役員へ

こども向け活動を
通じて保護者との
かかわりづくり



町会・自治会の運営で こんな「困りごと」はありませんか？

町会・自治会の運営において、どのような「困りごと」がありますか？
7つの「困りごと」に対する取組のポイントをこのページで紹介しています。
また、7つの困りごとに対応した解決のヒントとなる各事例紹介ページもご覧ください。

1

こんなことで困っている…

加入者を増やしたい

ポイント

- 町会・自治会をPRする
(まずは知ってもらう)
- 参加したくなる活動を実施する
(参加から加入へ)
- 町会の意義や必要性をPRする

p.7



2

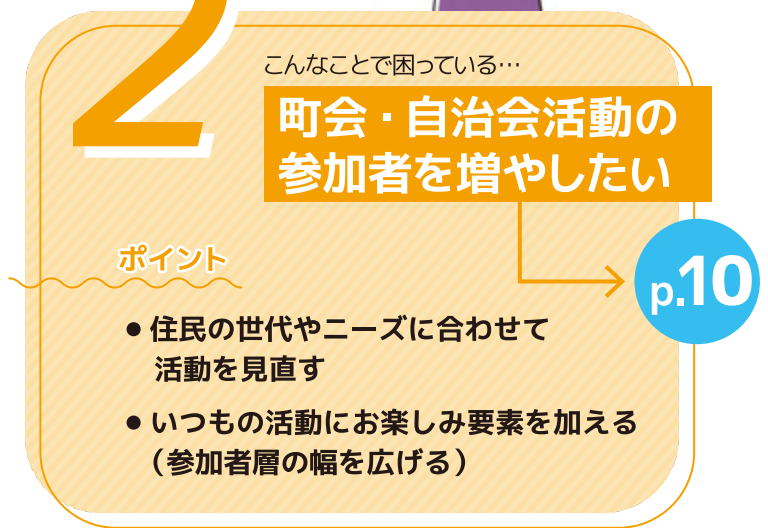
こんなことで困っている…

町会・自治会活動の 参加者を増やしたい

ポイント

- 住民の世代やニーズに合わせて
活動を見直す
- いつもの活動にお楽しみ要素を加える
(参加者層の幅を広げる)

p.10



3

こんなことで困っている…

町会・自治会運営に かかわる人を増やしたい

ポイント

- 気軽に参加できる仕組みをつくる
(まずはお手伝いから)
- お手伝いを募集する(活動の告知の都度)
- サポーター制度などの組織をつくる
(継続的なかわりの仕組みづくり)

p.13



4

こんなことで困っている…

若い世代のかかわりを 増やしたい

ポイント

- 「楽しい」をきっかけに参加・参画してもらう
- 若い世代のライフスタイルに合わせて運営を見直す
- 若い世代の意見を聞き、尊重する

p.17

5

こんなことで困っている…

マンション住民との 接点をつくりたい

ポイント

- 防災や子育てなどのテーマで連携した活動を行い、顔を合わせる機会をつくる
- マンション掲示板やエレベーターにチラシなどを掲示してもらう

p.20

6

こんなことで困っている…

デジタルを活用して 多くの住民に 情報を届けたい

ポイント

- SNSなどの運用ができる人を探して担当してもらう
- 負担の分散とリスク管理の視点から、できるだけ複数名体制で運用する

p.22

※SNSについての解説
→ p.27

7

こんなことで困っている…

他の町会・自治会や 他団体と連携したい

ポイント

- 大きな行事は近隣の町会・自治会と連携して実施し、人的負担と費用負担を分散する
- 地域の学校や事業者と連携した活動を行うことで、告知の幅も広げて参加者を増やす

p.25



こどもと楽しむイベントが 家族の町会デビューを後押し

北砂3・5丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	集合住宅の世帯が多い

事例の概要・ポイント

- ▶ 住民同士のつながりづくりを目的に、時代に合わせた活動内容の見直しから加入促進をスタート
- ▶ 申込フォームの活用などのデジタル化で、イベントに参加しやすく



取組の背景や想い

社会環境の変化に対応して活動を見直し

子育て世帯の転入が増えたことから、どうしたら町会に加入・参加してもらえるかを考えていました。

これまでは高齢者向けの活動がメインでしたが、より多くの住民に町会を知ってもらうため、子育て世帯が参加しやすいこども向けの活動にシフトすることにしました。

取り組んだこと

- ハロウィンや花火会などのこども向けの活動を新たに実施
- こども向けイベントを通じて、保護者の方々との接点づくりや、町会への加入やかかわりのきっかけづくりに展開

工夫したこと

デジタル化で参加のハードルを下げる

活動の見直しと合わせてデジタル化も進めています。行事への参加申込フォームを導入して若い世代の参加のハードルを下げています。

これからの町会・自治会について

「時代に合わせて町会が変わる」という意識を役員間で共有しながら、風通しのよい雰囲気づくりで、役員一人ひとりのアイデアを柔軟に取り入れて活動していきます！

これからは若い方に役員を担ってもらうためにも、デジタル化による負担軽減を進めていく必要があると感じています。

成果・効果

町会に対する意識の高まり

転入直後は加入してくれなかった方も、こども向け活動への参加を通じて顔見知りになり、話をするなかで町会に関心をもってもらい、結果的に加入してくれる方が増えています。

会長のパッション

新しい取組は、始めはうまくいかなくても続けてみることを大切にしています。

トライアンドエラーの精神でチャレンジしながら、町会が変わっていくことが大切だと思います。

「なくなったら困る」を「入ってよかった」に変える自治会へ

南砂住宅自治会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	集合住宅のみで構成

事例の概要・ポイント

- ▶ 「自治会がなくなったらどうなるか」を訴えかけた自治会の意義や役割の周知
- ▶ 住民ニーズに対応した住民同士のつながりづくりの取組を通じた加入促進

取組の背景や想い

自治会の役割や必要性を知ってもらう

当自治会では、高齢化や住民の入れ替わりで自治会会員が減少していることが課題になっていました。

そこで、「もし自治会がなくなったら…住環境や衛生環境の悪化、住民同士の助け合いがなくなる」など暮らしがどうなるのかを住民に伝えることにしました。また、住民同士の交流促進も自治会の大切な役割であるため、さまざまな活動を展開しています。

工夫したこと

さまざまなテーマの活動で住民の関心を高める

高齢者向けの茶話会や健康麻雀などテーマを変えた活動を展開しています。そのほか、多世代交流を目的としたフリーマーケット、長寿サポートセンターと連携したフードパントリー事業など、なんでもやってみる!という姿勢でさまざまな取組を実施しています。

これからの町会・自治会について

高齢化とコロナ禍をきっかけに団地祭というイベントを中止していましたが、こどもの頃から団地祭に参加してくれていた学生の方が「復活させたい!」と声をあげ、企画・準備・仲間集めから当日の運営までを担い、復活させてくれました。

自治会への加入や担い手づくりのためにも、住民が楽しむ活動を取り組んでいくことの大切さを実感しました。

取り組んだこと

- 「自治会がなくなるかも!」という危機的状況を訴えるチラシを全戸配布し、団地住民へ自治会の意義や役割を周知
- 幅広い世代の住民ニーズに対応した活動を展開

成果・効果

加入者や活動の担い手の増加

加入促進のチラシ配布後は、70 世帯の加入がありました。自治会の意義や役割がしっかりと伝わったことによる成果だと思えます。また、これまでのさまざまな活動の結果、多世代の方が自治会に関心をもち、積極的に参加してくれるようになりました。

会長のパッション

自治会の活性化に向けて、住民の年齢層やニーズなど現状を把握することが重要だと思っています。そして、ニーズに合わせた活動を“まずやってみる”ことが大切だと思っています。その際、若い世代の方の企画には「お金は出して口は出さない」をモットーに後押しすることを心がけています。

加入の覚書でしっかり約束！ 集合住宅と町会のつながりをキープ

毛利町会

加入世帯数	501～1,000 世帯
立地特性	戸建てと集合住宅の世帯が同じくらい

事例の概要・ポイント

- ▶ 新築マンションのオーナーと町会加入に関する覚書の取り交わし
- ▶ サポーター制度「お助け隊」の発足による町会とのかかわりづくり

取組の背景や想い

新しいマンションの加入やかかわりの継続に向けて

新築の賃貸マンションが増加し、戸建てが減少していくなかで住民の入れ替わりが進み、町会活動のかなめとなる加入促進が大きな課題となっていました。

そこで、加入のタイミングを逃さない加入促進の取組や、住民が少しずつ町会にかかわりを持てるような取組を行うことにしました。

取り組んだこと

- 新築マンションのオーナーへの交渉で、転売後も加入しつづけてもらう仕組みづくり
- 町会活動の「お助け隊」を発足し、隊員を募集して町会にかかわる住民を発掘

成果・効果

12名の「お助け隊員」が活躍

町会役員を担うことは難しいけど、地域の活動には興味を持ってくれる人たちがいることがわかりました。町会活動をお手伝いするライトなかかわりの仕組みとして「お助け隊」の募集チラシの掲示や配布などで登録を呼びかけ、今は12名が登録してくれています（2025年12月時点）。

工夫したこと

マンションオーナーとの「覚書」の締結

大規模な新築マンションが建つ際、オーナーとの加入交渉が成立しても、転売されると無効になってしまうことがありました。現在は、転売後も加入し続けてもらえるよう「覚書」を交わし、次のオーナーにも責任を持って引き継いでもらっています。

これからの町会・自治会について

町会活動をするうえで、日頃から地域の人たちと顔を合わせる機会づくりや声かけが大切だと実感しています。町会の役割としては、回覧板を回すだけでなく「普段からあいさつできる関係を築くこと」、さらには「地域住民から相談を受ける立場であること」を大事にしていきたいと考えています。

会長のパッション

役員の高齢化が進んでいますが、役員ではない「お助け隊」のメンバーが町会活動をサポートしてくれています。それは将来的にとっても希望のあることだと感じています。町会＝役員というイメージに縛られず、サポーターの輪を広げていきたいと思っています。



個々のスキルでコスト削減！ 住民の力がイベント成功の原動力に

ニュートンプレイス新東京フォーラム

加入世帯数	501～1,000世帯
立地特性	集合住宅のみで構成

事例の概要・ポイント

- ▶ 住民ニーズの把握を通して、参加したくなる活動に見直し（予算配分も）
- ▶ 「得意」を活かして住民が活躍する自治会へ



取組の背景や思い

満足度の低いコンテンツの魅力高めたい

約20年続く自治会の一大イベントであるフェスタニュートンでは、2014年まで大部分を業者へ委託してきました。2014年にフェスタに関する住民アンケートを行った際、ステージプログラムの満足度が最も低いことがわかりました。そのため、ステージプログラムの内容を充実させて満足度を高めるための予算捻出を行うことにしました。

取り組んだこと

- 電気工事の有資格者やデザインが得意な住民などに協力してもらい、外部発注を縮小した分ステージの設えと出演者を充実させ、住民のニーズに対応
- フォームの活用で募集やアンケート集計を省力化、会議はZoom併用で出席率がアップ

工夫したこと

輪番制ならではの人財を大切に

会長・副会長以外の役員は1年ごとの輪番制です。毎年役員が変わるからこそ、さまざまなスキルを持った住民との出会いがあります。その縁を大切に、過年度の役員にも大きなイベントではスポットでお手伝いを依頼しています。

成果・効果

参加したくなる自治会へ

イベントの満足度向上で住民の参加が増えることはもちろん、外注ではなく自らが運営にかかわる住民も増えて顔が見える関係づくりにつながりました。その他にも年間のさまざまな活動を通じて多くの住民の参加があります。

これからの町会・自治会について

役員は1年ごとの輪番制のため、業務の引継ぎが課題になっています。そのため、引継ぎやすいよう2年毎に半数を改選に仕組みを変えたり、マニュアルをつくったりするなど検討しています。加えてデジタル化も進めて効率化を図っていくことも重要だと思っています。

会長のパッション

年間を通じてたくさんの活動を行っていますが、大変だという思いはあまりありません。何よりもいろいろな人とかかわって情報交換できることが「楽しい」と感じています。楽しみながら取り組んでいくことが一番大切なことだと思います。

ご近所さんともっと仲良く！ イベントでつながる交流の輪

アルファシティ大島自治会

加入世帯数	101～500 世帯
立地特性	集合住宅のみで構成

事例の概要・ポイント

- ▶ 住民を巻き込んだ参加型のイベントを企画・運営
- ▶ マンションエントランスで積極的に自治会活動をPR

取組の背景や思い

活動に参加してもらい、かかわってもらおう

自治会最大のイベントであるアルファスフェスタは、毎年多くの住民が集まり親睦を深めるきっかけになっています。また、イベントの準備や運営に多くの住民にかかわってもらおうようにすることで、住民にテントや備品の保管場所、使い方などを知ってもらい、災害時に自発的に行動することができるようにすることも目的にしています。

工夫したこと

手書きのイベントボードで活動をお知らせ

マンションエントランスに手書きのイベントボードを設置して、活動の参加を呼びかけています。親しみや暖かみのあるイラストも添えるようにして、興味を持って見てもらうとともに、参加したいと思ってもらえるような工夫をしています。

これからの町会・自治会について

役員は仕事量が多く大変だというイメージがあるため、お手伝いはしていただけても、役員を引き受けてくれる方を見つけるのに苦労しています。そのため、これからは役員活動費の導入なども検討し、担い手不足を解決する仕組みをつくっていくことも必要だと思っています。

取り組んだこと

- アルファスフェスタでの住民のお手伝いを定着させ、毎年約80名がボランティアとして参加
- イベントのお手伝いの方とリーダーのバンダナの色を変えることで、役割を“見える化”してスムーズな運営を実現

成果・効果

住民が“自分ごと”としてかかわるように

イベント中に雨が降ってきた際にテントなどを動かすことが必要な状況がありましたが、住民のみなさんが自発的に動いてくれました。「お客さま」ではなく「自分たちがつくるイベント」という意識が根付いているからこそその行動だと思います。

会長のパッション

大きなイベントだけではなく、マンションエントランスには季節の飾りつけをするなど、住民に楽しんでもらう工夫をしています。自治会の取組を通じて楽しい時間を過ごして

いただき、少しでも自治会に関心を持っていただけるよう努めています。





集会所でカレーの日!

おいしい時間で広がるコミュニティ

東砂1丁目団地自治会

加入世帯数	101~500 世帯
立地特性	集合住宅のみで構成

事例の概要・ポイント

- ▶ 団地集会所でのサロン・教室開催による、住民が集まる機会づくりと、それを通じた顔が見える関係づくり
- ▶ 住民への積極的・継続的な声かけやコミュニケーションを通じた日頃の見守り活動



取組の背景や思い

つながりをなくさないために

団地では高齢化が進み、外出の機会が少ない方もいることから、安否確認にもつながるような“顔を合わせる場”の必要性を感じていました。そこで、住民同士が交流できる取組を実施しています。また、団地のこどもは減少していますが、こども向けイベントを続けており、近隣のこどもたちが参加してくれることが住民の楽しみにもなっています。

取り組んだこと

- 集会所を活用して住民のニーズに応えるテーマ型サロンや教室を定期開催
- 居心地の良い場づくりとともに、活動に参加者しない方へも継続的に声かけを実施

工夫したこと

さまざまなテーマでの交流の機会づくり

定期的にカレーの日や持ち寄りランチの日、麻雀教室、カラオケ、DVD上映会など色々な内容で運営しています。誰もが参加しやすいよう、例えば麻雀の日でも麻雀せずお茶をするだけでも良いような気軽に楽しめる場づくりを心がけています。

成果・効果

楽しみにしてくれる参加者も増えて交流が充実

集会所での活動は定期的に開催しているものが多く、楽しみにして参加して下さる方も多くいます。食欲のなかった高齢の方からは、みんなと食事をとることで食事を楽しめるようになったという嬉しい声もありました。

これからの町会・自治会について

集会所を活用した取組のほか、全員参加で行う団地の清掃活動、ラジオ体操、季節ごとの行事（お祭り・クリスマス会・芋煮会・餅つきなど）は、つながりをなくさないためにもとても大切な取組です。今後も継続していけるよう、補助金を活用したり、近隣の自治会と交流したりしながら取り組んでいきたいと思っています。

会長のパッション

団地内で高齢化が進んでいるため、住民同士が顔を合わせる場があることは孤立防止にもつながっています。こどもが参加する行事は高齢の住民の生きがいにつながっているため、今後も住民がいきいきとできる活動を続けていきたいと思っています。

お手伝いの輪を広げる オープンな町会運営

大島4丁目町会

加入世帯数	101~500 世帯
立地特性	戸建ての世帯が多い

事例の概要・ポイント

- ▶ 住民の“やりたい”を町会が後押しして活動を展開
- ▶ サポーター制度を導入したオープンな町会運営を実現



取組の背景や想い

広く受け入れ、支え合う地域へ

「地域のつながりづくり」が町会の役割だと感じています。町会主催の活動に限定せず、会館の貸し出しや人的サポートなど地域のための活動を支えるよう心がけています。当町会は世帯数が多くないため、運営面でも町内外からの参加・参画を受け入れており、オープンな運営や雰囲気づくりを大切にしています。

工夫したこと

幅広い世代がかかわる機会をつくる

こども食堂や秋のこども向けイベントのほか、長寿会主催のおとな食堂など、町会員に限らず多くの方が集まり顔を合わせる機会を多くつくっています。このような活動を通じて町内外からの町会のファンづくりにつなげています。



これからの町会・自治会について

「よんちょこグループ」はありますが、役員の高齢化や担い手不足はやはり大きな課題です。これからは、事業や部の統廃合などを行い、負担軽減をしながら時代に合わせた持続可能な組織運営を進めていくことが大切だと思います。

取り組んだこと

- 住民発案のこども食堂の場所の提供と人的サポート（町会からは手伝いとして参加）
- 町外在住者で構成するサポーター制度「よんちょこグループ」を設置

成果・効果

「よんちょこグループ」の活躍

「よんちょこグループ」は、元々町内に住んでいて転出した方などを中心に、クチコミや声かけで少しずつ輪が広がり、今では15名の登録があります。イベントの準備や設営などに積極的にかかわってくれています。

会長のパッション

当町会は、戸建てが多く顔が見える関係をつくりやすい環境です。そのため、紙媒体での情報発信でも反応がよく見えるため、デジタル化は無理に急がず少しずつ進めることにしています。地域特性に応じて取組の優先順位を決めることが大切だと思います。

興味を惹く活動の参加から お手伝いへステップアップ

深川2丁目南町会

加入世帯数	101~500 世帯
立地特性	集合住宅の世帯が多い

事例の概要・ポイント

- ▶ 活動の告知と合わせてお手伝いの募集と積極的な声かけで活動への参画を拡大
- ▶ 他町会と連携した情報発信の強化による町会活動のPR



取組の背景や想い

住民の“参加したい”気持ちをきっかけに

まずは住民が町会に興味を持ってもらうことが大切だと考え、祭りやサマーフェスタ、餅つきなど、住民が参加したいと思う活動を展開しています。実際に活動へ参加したことをきっかけにまちを好きになってもらい、その後の活動にお手伝いとして協力してくれる人をひとりでも多く集めたいと思っています。

工夫したこと

情報共有で町会との「かかわりしろ」をつくる

手伝ってくれそうな住民がいれば役員会で情報共有し、直接声をかけ少しずつ関係づくりをしています。近隣町会とは各町会の行事のポスターを共有し掲示するなど、地域一体となった情報発信を行い、目に触れる機会を増やすようにしています。

これからの町会・自治会について

住民が参加して楽しいと思える活動であれば、手伝う人のモチベーションも高まると思うので、いかにモチベーションを高められるかが重要だと感じています。一方で、お手伝いの人数は増えていても役員の担い手不足は解消していないので、今後はお手伝いの人に役員の仕事を引き受けてもらう工夫を考えていく必要があると思っています。

取り組んだこと

- イベントの情報と合わせてお手伝い募集の案内を全戸配布で周知
- 近隣4町会との連携を通して情報共有と情報発信を強化



成果・効果

日々の活動の継続が町会を支える力に

町会活動の案内の全戸配布や役員の声かけ等の地道な行動の積み重ねで毎年少しずつお手伝いの方が増えています。

会長のパッション

何よりも町会活動に楽しんで参加してもらい、まちを好きになってもらうことが大切だと思います。また、お手伝いは無理強いせず、まずは都合の良いときだけでも参加してもらいをお願いしています。“無理なく” “楽しく” 参加してもらうことを大切に取り組んでいます。

募金のやり方も見える化！ 少しの工夫で不安も手間も軽く

住利町会

加入世帯数	101～500 世帯
立地特性	集合住宅のみで構成



事例の概要・ポイント

- ▶ 積極的な声かけと、楽しくオープンな雰囲気に参加しやすい組織づくり
- ▶ 町会活動にかかわる人の「わからない」を丁寧にサポート

取組の背景や想い

子育て世帯の転入増加に伴う“気づき”

子育て世帯の住民が増えたことで、輪番制で選出されるフロア委員にも若い方が増えました。すると、これまで自分たちが当たり前と思っていた従前のやり方がわからない、という方が多いことに気がつきました。そうした“気づき”を踏まえて、住民への積極的な声かけや円滑なコミュニケーションを心がけています。

取り組んだこと

- 若い方への積極的な声かけと参加しやすい雰囲気づくりで全員参加を意識した組織づくり
- 募金などの集金時の負担軽減のための工夫や取組

工夫したこと

輪番制だからこそ、役割の不安を軽減

若いフロア委員から募金の集金方法がわからないと言われたことがありました。今まで暗黙の了解のように行ってもらっていましたが、この声を受けて、募金で使うひな形や袋などを用意しました。不安や負担を軽減することにより信頼関係が深まりました。

成果・効果

“自分ごと”としてかかわる人が増加

フロア委員への積極的な声かけや、参加しやすい雰囲気づくり、人と人との関係づくりを心がけてきた結果、役員会や各種活動への参加率が向上しました。さらに、役員以外にも手伝ってくださる方が現れるなど、こうした取組全体が良い効果を生み始めています。

これからの町会・自治会について

こどもが楽しめる活動を大切にしています。そうした取組を続けることで、子育て世代の方にも運営に積極的に参加していただいています。こども向けの活動を通して、将来の担い手づくりにつながっていくことを期待しています。

会長のパッション

どのような活動も“みんなで”“楽しみながら”行うという想いを大切にしています。また、住民の方々に対して、町会としての取組の姿勢や活動についてきちんと伝えることも大事にしていきたいと思っています。

楽しいイベントで育つ 未来の町会メンバー!

亀戸4丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	戸建ての世帯が多い

事例の概要・ポイント

- ▶ お手伝いの役割の明確化で、かかわりやすい組織へ
- ▶ 幼少期からの参加を通じた顔見知りの関係づくりから将来的な担い手へ

取組の背景や想い

楽しい活動から参加・参画へ

町会活動に興味を持ってもらうきっかけづくりとして、防災訓練での放水時に道路に水を貯めて「どじょうつかみ大会」を行っています。その他、もちつきなど多世代が参加しやすい活動を通じて少しずつお手伝いとしてかかわってもらい、将来的に役員としての参画につなげていきたいと考えました。

取り組んだこと

- 中学生や小学校PTA役員を通じた子育て世代など、若い世代のお手伝いを募集
- こどもの頃から参加していた方が大人になって町会で活躍してもらう環境づくり

工夫したこと

お手伝いの内容を明確に & 楽しく参加

募集の際も参加当日も「具体的なお手伝い内容」を伝え、やりがいをもってかかわってもらえるように心がけています。みんなでお揃いのユニフォームを着用し、チーム感を高め楽しく参加してもらっています。

これからの町会・自治会について

こどもの頃から町会活動に参加していた方が大人になり、「楽しいイベントは役員の大変な準備の上でできている」ということを改めて感じ、町会活動のお手伝いをしてくれています。

その方はプロの落語家で、町会みんなで応援するために町会寄席を開催しています。

こどもや若い世代とのかかわりは、これからも大切にしていきたいです。

成果・効果

若手役員の増加

お手伝いをきっかけに役員になる子育て世代が増えてきています。また、幼少期から町会活動に参加してくれていた若い世代の方々も、お手伝いや役員として大人になってもかかわり続けてくれています。

会長のパッション

「町会とは昔からの縦社会の組織ではなく、誰でも参加ができるものに」という先代会長の考えを引継ぎ、こどもも若い世代もベテランも、みんなで楽しみながらつくり上げていく開かれた雰囲気大切にしています。

仲良くなることが一番の近道！ 若手と一緒に楽しく活動する町会へ



東陽1丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	戸建てと集合住宅の世帯が同じくらい

事例の概要・ポイント

- ▶ 積極的な声かけをきっかけに若い世代と顔見知りになり、少しずつかかわりを増やす関係づくり
- ▶ 個々の得意なことを活かした活躍の機会の創出

取組の背景や想い

運営方法を見直し若い世代を呼び込む

戸建てだった場所がワンルーム中心のマンションに建て替えられ、町会の会員数が減っている中でどうすれば若い世代に活動へ参加してもらえるかを考えました。若い世代とのコミュニケーションの取り方や、運営・情報発信の方法を見直すことで効果が出てきています。

工夫したこと

若い世代への歩みより

役員会は平日から土曜開催に変更し、また、若い世代に出してもらった意見は聞くだけでなく可能な限り実現するようにしています。役員会以外にも食事会を開くなど積極的にコミュニケーションをとるようにしています。

これからの町会・自治会について

デジタル化を進めると同時に、町会名簿のデータベース化にも力を入れています。これまで町会員・敬老祝い・入学祝いなどの対象者名簿をバラバラに管理していましたが、一元化により効率化を図るなど、引き継ぎやすく誰もがかかわりやすい運営が大切だと思っています。

取り組んだこと

- イベント参加の若い世代へ声をかけ、その後も近所で顔を合わせるなかで関係性を築き、お手伝いや役員へ勧誘
- SNS や写真撮影など若手役員の得意なことや意見を尊重して自分ごととしてかかわってもらうための運営の改善

成果・効果

町会を離れてもかかわり続けてくれる関係へ

SNS を担当してくれている若い方は、仕事の都合で町会を離れた今も変わらず遠隔で Instagram の発信を続けてくれています。

食事会などのカジュアルな場でも交流を深めるなど、より良い関係性を築いてきたことで、町会を好きになってもらい、かかわり続けてもらうことにつながっています。

会長のパッション

はじめから町会活動に前向きな人ばかりではないかもしれませんが、しかし顔を合わせる度にこちらから積極的に声をかけ、話しをすることで徐々に打ち解け協力を得られる関係性をつくることができると思います。

こども会から広がる 子育て世代ウェルカム町会

扇橋1丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	集合住宅の世帯が多い



事例の概要・ポイント

- ▶ こども会保護者がかかわりやすい工夫を講じたサポーター組織の運用
- ▶ LINE公式アカウントでの情報発信やフォームの活用などデジタル化を推進

取組の背景や想い

忙しい子育て世代でも活動に参加しやすく町会会員世帯のこどもは自動的にこども会の会員にもなっているため、その保護者には期間を限定しお手伝いの協力をしてもらっています。また、町内にマンション住民が増え、掲示板だけでは情報が行き渡りづらいと感じてデジタル化を進めることにしました。

取り組んだこと

- こども会に所属する小学3年生の保護者にサポーターとしてお手伝いを依頼（任期1年、年2回程度の活動）
- LINE公式アカウントを運用し、イベントのお知らせや活動の様子を配信



工夫したこと

デジタルツールを積極的に活用

町会が会員世帯のこどもの有無や学年を把握しきれないため、こども会への加入はフォームを活用し確認しています。また、LINE公式アカウントからはリアルタイムで活動の様子を配信しています。

成果・効果

デジタルツールならではの利点を生かして参加者増

こども会以外にも各種行事の参加申し込みフォームを活用することで取りこぼしが減り、導入前よりも活動への参加者数が増えました。また、LINE公式アカウントのリアルタイム配信を見て当日活動に参加してくれる人もいます。

これからの町会・自治会について

新規マンションの町会への加入は1割程度しかありません。町会の加入方法がわからない方や、町会に加入していると思い込んでいない未加入者もいます。そのため、こども向けの活動を行い、参加する保護者に対して積極的に加入を呼びかけ、今後も加入者を増やしていきたいです。

会長のパッション

こども会をきっかけに町会役員になってくれているママさんがいて、その方の声かけでお手伝いの輪が広がってきています。「かかわるきっかけをつくる」、「負担の少ないお手伝いをお願いする」ことが若い世代とのかかわりを増やすポイントだと思います。

若手の「やってみたい」を応援！ かかわりやすい町会が地域を変える

北砂4・7丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	戸建ての世帯が多い

事例の概要・ポイント

- ▶ 若手役員の得意分野を活かして、高齢化に対応した活動の企画をお任せ
- ▶ 若い世代がかかわりやすい組織づくり



取組の背景や想い

高齢化に対応した取組を企画

当町会は子育て世帯が多いことから、こども向け行事を多く開催していました。一方で、高齢化率が区平均より高いものの、高齢者向けの取組はあまり行っていませんでした。

そこで、リハビリの仕事をしている若手役員の方が、自身の得意分野を活かして地域の健康寿命を伸ばすための健康教室を自発的に発案してくれました。

取り組んだこと

- 若手役員発案の健康教室の企画を採用し、町会として全面バックアップ
- 若い世代が活躍しやすいオープンな組織運営に向けた役員の意識醸成の取組



工夫したこと

若い世代は単なるマンパワーではない

若い世代の方を単なるマンパワーとは考えず、企画からかかわってもらうようにしています。高齢の役員には、若い世代のアイデアなどを受け入れる意識をもってもらうように声かけをして、オープンでかかわりやすい組織運営を心がけています。

成果・効果

企画の実現への期待向上

「かかわりしろ」のあるオープンな組織づくりを心がけたことで、若手役員が主体的に町会運営にかかわってくれるようになってきました。初開催の健康教室は大変好評で、高齢者だけでなく若い世代の方の参加もあり、多世代交流の機会にもなりました。

これからの町会・自治会について

若手役員がこども連れで運営や会議に参加することも積極的に歓迎しています。こどもたちにとって町会での経験は、大人になった際にかげがえのない体験や思い出になり、将来的な担い手にもつながると思います。そのため、若い世代を受け入れ、地域全体でこどもを育てるという意識を持つことが重要だと思っています。

会長のパッション

「時代に合わせて町会が変わる」、「相手の立場にたって物事を考える」など、若い世代の方に参加してもらうための意識を持つことを大切にしています。自分でやった方が早いと思うことも適材適所でできるだけ仕事をお願いするようにしています。

顔の見える関係づくりで安心倍増！ 町会×マンションの防災タッグ



新大橋1丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	集合住宅の世帯が多い

事例の概要・ポイント

- ▶ “防災”を通じたマンション管理組合との連携
- ▶ 紙媒体とSNSでマンション住民への積極的な情報発信



取組の背景や思い

マンション住民との関係づくり

ここ1年で新しいマンションが増え、地域の約9割がマンションになっている中、マンション住民の加入が増えています。町会としてもマンションとの風通しの良い関係や交流を図っていきたいという思いがあります。また、川沿いという環境特性も踏まえて、水害や防災に関して町会とマンションが協力してできることを話し合っていました。

取り組んだこと

- マンション内に、町会からのお知らせのチラシなどを掲示できるスペースを設置
- 区・町会・マンションの三者協定（水害時における町会と民間マンションとの一時避難協定）を締結

工夫したこと

紙媒体とデジタルの両輪で情報を届ける

マンション内に町会の情報を掲示できるスペースを作ってもらうことに加えて、特に若い人に情報を届けるために、デジタルも活用してInstagramやホームページでも発信しています。目を引く写真など興味関心を持ってもらえるよう工夫しています。

成果・効果

水害・防災対策の連携の広がり

三者協定は町会内の別のマンションでも検討されています。また、既に三者協定を結んだマンションとは現在、町会と一緒に管理する防災倉庫を作る協議を行っています。水害や防災に関して町会とマンションが連携して行う活動が広がってきています。

これからの町会・自治会について

水害や防災対策を進めるうえで、戸建てとマンションの関係が良いのは、普段さまざまなイベントを行っているおかげだと感じています。しかし、イベントを継続するためには町会加入者を増やすことも大切です。若い人や子育て世代がイベントへの参加をきっかけに、加入に対しても前向きになってもらうことが今後の課題だと思っています。

会長のパッション

マンション住民の方との親睦交流を深めるために、マンションの貸室をお借りして持ち寄りパーティを年数回行っています。互いに知り合う関係をつくっていくことが、継続的なかわりにつながると思います。今後も楽しい取組でかわりの輪を広げていきたいです。

食でつながる、備えてつながる 防災イベント「喰いしん坊祭り」



豊洲5丁目マンション自治会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	集合住宅の世帯が多い

事例の概要・ポイント

- ▶「防災」と住民同士の「つながりづくり」を目的としたイベントを開催
- ▶各マンションがイベント運営や出店、広報で参画

取組の背景や想い

人と人がつながるコミュニティを目指して

豊洲5丁目の住民によるまちづくりは2003年頃から本格的にはじまりました。まちづくりの基本は「防災」。その防災で一番大切にしたいのが「人と人がつながっている」ことだと思っています。マンションは閉鎖的になりやすい傾向にありますが、イベントを通して顔を合わせる機会をつくりたいと思いました。

取り組んだこと

- 「食」でつなぐ防災イベント『喰いしん坊祭り』の開催でマンション住民同士の交流のきっかけづくり
- イベントの準備や運営、出店は各マンションが主体となって選出して参加する仕組みづくり

工夫したこと

各マンションの積極的なかかわり

当自治会は複数マンションの連合で構成されています。各マンションから役員を選出するだけでなく、イベントの運営人員の選出、当日の出店、広報まで各マンション内でしっかりと取り組んでもらうことで、ご近所の一員という意識を持ってもらっています。

成果・効果

子どもたちがお手伝いしたくなるイベントに

『喰いしん坊まつり』を毎年続けていると、子どもたちに「どうしたらお手伝いできますか」と聞かれることがたびたびあります。イベントの来場者も年々増えていますが、このように自らかかわろうとしてくれる子どもたちが育っていることが何よりも嬉しいです。

これからの町会・自治会について

自治会設立前から「私たちのまちは、私たちの手でつくる」をモットーにまちづくりに取り組んできました。現在の活動が、子どもたちの関心事になっている様子も伝わってきています。そんな子どもたちの未来のためにも、住民同士がかかわり続けるきっかけづくりなど、周りと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

会長のパッション

会長の役割には会社員だったときには得られなかった面白みがあります。徐々に人とのつながりが増え、できることも増えていきます。このような、やってみたらこそ分かる楽しみや喜びを、会長職に限らず、活動にかかわってくれる次世代にも味わってもらいたいです。

Instagramで町会を発信！ デジタル化で住民との距離が近づく

東砂8丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	戸建てと集合住宅の世帯が同じくらい

事例の概要・ポイント

- ▶ 多様な手法を活用して町会活動の情報を発信し、町会の意義や役割を周知
- ▶ Instagram やことこみゅネットなど、デジタルを活用した情報発信の強化



取組の背景や思い

「何をやっているかわからない」に答えたい

町会が何をやっているかわからないという理由で退会したマンションがあり、情報発信やコミュニケーションに不足があったことを痛感しました。新築マンションからは、町会加入のメリットを聞かれることも少なくありません。そうした声に答えるためにも、町会活動を積極的に発信しなくては説得力がないと考え、デジタル化も加えて情報発信を強化しました。

取り組んだこと

- Instagramで町会活動の様子や告知などを中心に楽しい情報を発信
- ことこみゅネットでは町会の範囲や区分けなどの基礎情報をお知らせ
- デジタル化に伴い見直した2名体制での運用管理

工夫したこと

町会のロゴや紹介カードで町会の“見える化”

Instagramを立ち上げる際、町会のロゴや二次元コード付きのカードを作成して周知を行いました。また、Instagram投稿の際は、親しみやすい表現を心がけたり、写真の顔出しなどにも注意を払っています。

これからの町会・自治会について

町会は若い世代の意見や想いを受け止めながら、かかわってもらう人を増やしていくことが大切だと思っています。

また、どのような活動も子どもと一緒に参加できるよう工夫しています。そうした子どもたちの経験が将来の担い手へとつながるきっかけにしていきたいと思っています。

成果・効果

Instagramの登録者は5カ月で約200名にInstagramの登録者は徐々に増えており、現在約200名います（2026年2月現在）。活動の参加者に何で知ったかを尋ねるとInstagramで知ったという方もいて、効果を感じています。

会長のパッション

町会の一番のメリットはコミュニケーションだと感じています。挨拶のできる関係・ご近所付き合いを大事にしていきたいです。また、地域全体を考えるとときには周りの団体とも連携することが必要です。近隣町会との情報交換なども大切な役割だと感じています。

LINE公式アカウントと声かけの 両輪で若い世代へアプローチ

亀戸6丁目東町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	集合住宅の世帯が多い



事例の概要・ポイント

- ▶ LINE公式アカウントでこれまでかかわりのない方へアプローチ
- ▶ 町会に限らず地域一体で考えてまちを良くする取組を連携して実施

取組の背景や想い

デジタル化で町会の認知を高めたい

若い世代に町会を知ってもらい、参加してもらうためにも情報発信を強化させたいという想いがありました。また、将来的に回覧板を回す人手も大変になるため、デジタル化を進めることにしました。デジタル化は主に若手役員1名で担当して、LINE公式アカウントやホームページなどを運用しています。

取り組んだこと

- 若い世代の参加につなげるためにLINE公式アカウントで情報発信
- 声かけをきっかけにお手伝いの輪を広げ、若い世代が若い世代を呼ぶ“かかわりやすい組織”へのシフト

工夫したこと

顔見知りや関係団体への積極的な声かけ

地域の小学校PTAや中学生、大型商業施設の若手社員などと関係づくりを行い、連携して活動を行っています。また、ママ友・パパ友のつながりで声をかけるなど、お手伝いの輪を広げています。

成果・効果

LINE公式アカウントの活用による 情報発信・共有に期待

始めたばかりのため、LINEでの発信が直接的な成果につながっている実感は正直まだわかりませんが、顔見知り以外の輪を広げるためにも、デジタルでの情報発信を続けることが必要だと感じています。

これからの町会・自治会について

時代に合わせた町会運営が求められると思います。当町会は担い手不足を背景に、部を統廃合して約半分に減らすことで運営しやすい工夫をしました。役員は40～50代の若い世代が多いので、さらに若い世代が参画しやすい状況になっています。高齢の役員も新しいことを受け入れるオープンな姿勢であることも、若い世代がかかわりやすくなっています。

会長のパッション

町会は地域コミュニティの核として、マンション・商店街などを含むエリアでのコミュニティマネジメントの視点で運営していくことが求められると思います。町会役員や会員で線引きするのではなく、地域全体で緩やかにつながることで良い地域になっていくと思います。



急なお知らせもすぐ届く

無料で活用できるSNSで情報発信

白河3丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	戸建てと集合住宅の世帯が同じくらい

事例の概要・ポイント

- ▶ 無料で運用できるLINEオープンチャットとInstagramを活用した情報発信
- ▶ SNSの運用ルールと体制づくり

取組の背景や想い

若い人に情報を届けたい

マンションに住む若い世代が増えたことで、従来の掲示板や回覧板などアナログでの情報発信に加えて、デジタル化を進めたいと思いました。また、過去に天候の影響で急遽役員会を中止した際、速やかに一斉に連絡する方法がなかったこともデジタル化を考えるきっかけになりました。

取り組んだこと

- 現役世代を中心とした広報部を発足してSNS活用を推進
- LINE オープンチャットでイベント告知、Instagramでイベントの準備や当日の様子を写真や動画で発信

工夫したこと

無料で運用できるツールを活用

LINEオープンチャットやInstagramは無料で情報発信することができ、予算を確保していない中でもすぐに活用できるため運用を開始しました。SNS運用ルールを定め、投稿する前に広報部員が互いにチェックする体制を整えています。



成果・効果

数か月で登録者数100名以上

LINE オープンチャットは二次元コードの掲示とクチコミで登録者が増え、運用開始数か月で登録者が100名以上になりました。また、Instagramで動画を投稿すると再生数が増えるので、見られていることを実感できます。

これからの町会・自治会について

デジタル化を進めることで若い世代やマンション住民の町会への関心を高めて参加につなげていくことはもちろん、広報を手伝ってくれる若い世代のかかわりのきっかけにもなります。SNSを通じて、得意なことを活かして無理のない範囲でかかわってくれる仲間を増やしていく取組も進めていきたいです。

会長のパッション

当町会はこども会、青年会、長寿会いずれもとても活発で、幅広い世代の方がさまざまな活動に参加しています。高齢者向けにアナログでの情報発信も続けながら、デジタルも併用し、時代に合わせて町会が変わっていくことも大切だと思っています。

町会×学生×PTAみんなで連携！ 一緒に取り組んで負担を軽減



大島2丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	集合住宅の世帯が多い

事例の概要・ポイント

- ▶ 近隣町会との連携事業で負担を軽減
- ▶ 学生やPTAなど多様な主体がかかわる組織運営の仕組みづくり

取組の背景や思い

課題を共有し、協力し合う関係性を築く

役員の高齢化により、盆踊り運営の人手不足が課題でした。お隣の大島1丁目町会とお互いの課題について話してみると、同様の状況であることがわかりました。もともと大島1丁目町会とは1つの地域であったという歴史的な背景や、同じ学区のため住民同士のつながりが深くあったこともあり、連携して活動することになりました。

取り組んだこと

- 納涼盆踊り大会の合同開催で資金面での負担を分散
- 高校生ボランティアや小学校PTAなど他団体との連携で活動の負担を軽減



工夫したこと

つながりからお手伝いを依頼

役員のご家族に高校勤務の方がいるため、生徒に呼びかけてもらったところ盆踊りのボランティアとして参加してくれるようになりました。また、小学校PTAとも日頃から良好な関係にあるため、町会活動への参加やお手伝いをしてくれています。

成果・効果

PTAとのつながりから役員へ

小学校PTAとの良好な関係から、元PTAの方が町会役員になってくれる流れができています。役員の担い手確保や若返りにつながっています。

これからの町会・自治会について

町会役員の担い手不足や高齢化で運営が困難な場合は、自分たちだけで解決することは難しいこともあります。そのため、これからも近隣町会や他団体と連携しながら、お互いに補える部分を助け合って地域のニーズに合わせた取組を続けていきます。

会長のパッション

他団体や地域内外の住民が活動に協力する際は、気持ちよく手伝ってもらうために、「楽しく」「負担を少なく」を心がけています。また、50代以下の若手役員には無理のない参加環境を整え、初めてでも参加しやすい部に配属して定着率の向上を図っています。

一緒にやると楽しい！ 町会と自治会のコラボで盆踊り

亀戸9丁目町会

加入世帯数	1,001 世帯以上
立地特性	集合住宅の世帯が多い

事例の概要・ポイント

- ▶ 近隣自治会と連携した盆踊りを開催して地域団体も多数出店
- ▶ 小学校や神社の協力を得ながら活動を展開



取組の背景や想い

近隣自治会と連携してイベントを継続

盆踊りなどの大規模なイベントは、町会のみでは人手不足のため運営が大変でした。そのような中、近隣のマンション自治会は活動の場があまりないことがわかり、連携して盆踊りを行うことになりました。連携することで設営費用などの分け合いにより負担軽減も期待できました。

取り組んだこと

- 近隣のマンション自治会2団体と合同で盆踊りを開催
- 盆踊りでPTAやこどものスポーツチームなどが出店してにぎわいを創出



工夫したこと

子どもが参加しやすい価格設定の工夫

イベント備品を町会で購入し、ランニングコストを削減しています。その分、地域団体から出店料はいただきず、安価販売にご協力いただいています。そうすることで、子どもでも買いやすい商品が多く、幅広い住民が参加しやすいイベントになっています。

成果・効果

連携をきっかけに良い関係性

長年にわたってマンション自治会と良好な関係を築いてきた結果、津波等の災害時における一時避難施設としてマンションのスペースが利用できる安心協定を結び、相互に協力した災害対策を行うことができるようになりました。

これからの町会・自治会について

近隣自治会や地元団体との連携だけでなく、区を越えた連携として旧中川で江戸川区の町会と連携して灯籠流しのイベントも行っています。今後も活動を継続して近隣と協力し合い、より多くの住民が町会に関心を持ってもらうきっかけをつくらせていきたいです。

会長のパッション

旧中川土手のあじさいの管理などに住民ボランティアを募ったり、若い世代の興味関心をひくよう“楽しい”、“食”などを意識した取組を実施しています。若い世代から高齢の方まで、幅広い世代の住民が参加したくなる町会を目指しています。

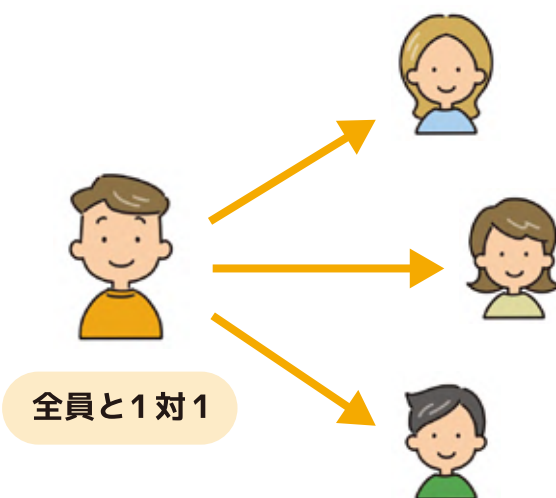
参考

◆ SNSとは

- SNSとは、「LINE」「Instagram」「X (旧 Twitter)」「Facebook」「TikTok」など、インターネット上で交流することができるサービスのことです。
- 区内で SNS を活用している町会・自治会では「LINE」と「Instagram」を活用している例が多い傾向にあります。

◆ LINE 公式アカウントとは

- 行政や企業・店舗などが利用する LINE のビジネス用アカウントのことです。現在はビジネスに限らず、地域コミュニティや個人での利用も増えています。
- 登録者に、様々な情報を一斉に配信できるのが特徴です。
- 配信とは別に、トーク画面下に固定できるリッチメニュー機能からホームページやフォームなどに誘導することも可能です。
- スマホ・パソコンどちらからもアカウントの開設・管理・運用が可能です。
- 2026年3月現在、3つの料金プランがあり、いずれのプランも利用できる機能に差はありません。



町会・自治会の場合は、
いずれかのプランが一般的

プラン名	料金	メッセージ配信数
コミュニケーションプラン	無料	月200通まで配信可能（登録者数×配信回数） ※登録者80人の場合は「80人×1回配信=80通」 ➡月2回の配信（計160通）が上限
ライトプラン	月額 5,000 円 (税別)	月5,000通まで配信可能（登録者数×配信回数）
スタンダードプラン	月額 15,000 円 (税別)	月30,000通まで配信可能（登録者数×配信回数）

※LINEヤフー for Business (LINE公式アカウント料金プラン)より引用 2026年3月現在

◆ LINEオープンチャットとは

- LINEアプリ上で誰でも参加できるチャットルームのことです。
(※参加者を限定することも可能です)
- グループLINEと違い、個人の特定につながらずにニックネームやチャットルーム用のアイコンで参加できます。
(個人間のつながりがないまま、チャットルーム内で情報共有ができます)
- 登録前のメッセージも遡って閲覧することが可能です。
- 2026年3月現在、メッセージ配信数の上限なく無料で活用できますが、参加メンバーは通常上限5,000名となっています。



◆ Instagramとは

- 画像や動画など視覚的なコンテンツをメインに投稿するSNSです。
- 年代別では、特に10代～30代の利用が多いです。
- 情報収集ツールとしても優れているため、写真や動画でリアルな情報を探しにくる人たちに届けることができます。

◆ フォームとは

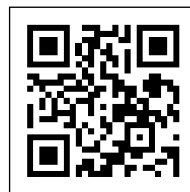
- Webサイト上でユーザーが情報を入力し、サーバーへ送信するための機能のことです。
- 町会・自治会で活用する場合は、町会・自治会への加入、イベント等への参加申込、アンケート、問い合わせなどがメインとなります。
- 無料で活用できるフォームが多数あり、中でも、「Googleフォーム」やMicrosoft社の「forms」などを活用している町会・自治会が多い傾向にあります。

◆ ことこみゅネット

(江東区コミュニティ活動支援サイト)とは

- 町会・自治会、ボランティア団体、NPO法人など、江東区で地域活動をしているさまざまな団体が、活動の様子やイベント情報を発信できるサイトです。
- 会員登録をすると、「こんなことをやっています」「参加者を募集しています!」といった情報を、簡単に地域の方へ知らせることができます。

ことこみゅネット
<https://kotocommu.net>



江東区 町会・自治会 事例集

令和8年3月 発行 印刷物登録番号(7)119号
編集発行 江東区地域振興部地域振興課
江東区東陽4-11-28
電話 03(3647)9111 (大代表)

事例集電子版



